

水の週間実行委員会会長賞（優秀賞）

水の輝き、それは命の源

徳島県

鳴門教育大学附属中学校

三年

井村 華子

キラキラと輝く命の源・・・「水」。水道の蛇口を開けると、絶え間なく流れる水が私をうるおしてくれる。「冷たい。」と感じるのも、心地良い瞬間なのだ。蛇口から流れる一本の水の集合体。私はこの水の流れるさまをじっと見つめながら、「命の源」である水の力強さを感じ取っていたのだ。

「水」と聞くと、一番に脳裏に浮かぶのは、私が東京へ行った時に「ユニセフ協会」を訪れたことである。ずっと前から世界の他の国々の生活に興味があり、一度は訪れたいと思っていたのだ。そこでは、私の「水」に対する考えをガラッと変えてくれた、深い重みある体験があった。

発展途上国。そこには学校に行きたくてもお金が足りず、行けない子供達がたくさんいる。そして、少しでも稼ごうと、一日に何時間も仕事をして家族を支え続けている子供もいる。しかし、そんな子供達に襲いかかるのは、感染症などの病気である。感染症は、命の源である「水」にも影響しているのだ。

他にも、こんな衝撃的な映像を見た。朝早くから子供達が大きな水瓶を持って、何キロメートルも離れた川や池まで歩き、水をくみ上げている。私たちの生活では全く想像がつかない。毎日、飲みたい時に蛇口をひねると出てくる水。体を洗おうとすると、いくらでもシャワーから流れてくる水。水不足に困ったこともなかった私には、そこで見た発展途上国の人々の生活から、大きな衝撃を与えられたのだった。「川」といっても、決して安全な水ではない。川には微生物もいて、泥が混ざっていたりもする。私たち日本人なら、こんな不衛生な川の水には一切手をつけないだろう。

私たちにとっては「当たり前の水」が、国が違うだけで「なかなか得られない水」であるのだ。私は改めて、水という資源は大変貴重なものであり、私たちの生活になくってはならないものだと感じたのである。

私は今まで、毎日たくさんのお水を使ってきた。朝起きると水で顔を洗い、コップ一杯の水を飲み、湯のはったお風呂に入る・・・もし水がなかったら、こんな豊かな生活は出来ないことだろう。しかしそれが今、世界には水への苦難に直面している事実もあるのだ。安全な水が手に入らず、怯えながら生活している人のために手助けしていくのは、私たちしかいないのである。今まで自由に使い放題に使ってきた自分をもう一度見つめ直し、発展途上国で起きている病気などに、ストップをかけることが私たちの使命なのである。私は心の中で、今自分のやるべき事をささやいてみた。

何が出来るか。まずは、私が知り学んだ、発展途上国での生活をたくさんの人に知ってもらおうことだ。日本という小さな集団の中だけの知識では、水の尊さだつて分からない。しかし、世界に視野を広げることで、私のように当たり前だと思っていたことが実は全く違うこともあるのだ。そうして、水の尊さに気付いてもらいたい。

私は小さい頃から水泳選手として、目標に向かってプールで泳ぎ続けている。あの、何とも言えない水の輝き、水がたてる音、そして透明感。今思い返せば、そんな中で泳いでいた私はどんなに幸福だったことだろうか・・・。「水」というものは、人々を幸福にし、安らぎを与えてくれる財産なのである。だからこそ、私たちは常に財産を大切に使う必要があると思うのだ。

水。それは力強い大地からの恵み。そして、私たちと共に生きていく重要な資源。普段何げなく使ってきた水をこれからはどのように使うべきなのだろう。毎日目にしているあの水の輝きが、以前より一層、輝いているように見えた。